

**基本方針3 「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」**

この地域に住みたいと思えるような「誰もがくらしやすい“藤島”」を実感できる生活基盤の再構築に向けて、交通環境の広域ネットワーク化や、新たな産業集積を目指す取り組みを推進するとともに、特に若者世代から選ばれるまちを目指した住環境の整備や子育て環境の充実を図っていきます。

また、高齢者が社会参画しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組み作りや、コミュニティ防災の強化などにも取り組めます。

**具体的な展開方策（1） 自立分散型インフラ整備の推進** **【着眼点との整合：コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現】**

藤島地域の人口減少率が、市の平均よりも高くなっています。その要因の一つとして、産業の基盤となる広域ネットワーク道路網整備、工業団地等開発、住宅地及び公共交通の確保が不足しており、定住地としての魅力に欠ける状況にあることが考えられます。

地域内の産業・生活の基盤整備を行うことにより、定住人口の維持及びU I ターンの促進を図ります。また、副次的効果として、交流人口の増加も期待されます。

**○主な施策**

**①高速交通に対応する広域ネットワークの整備促進**  
 鶴岡藤島間道路の名称を鶴岡新庄連絡道路(仮称)と改称して庄内南部の中心都市である鶴岡市と、最上の中核都市である新庄市を最短で結ぶことで、高速交通に直結する広域ネットワークとして地域経済に大きく貢献していくことを積極的にアピールし、整備実現に向けた取り組みを展開していきます。

また、これまでの同盟会事業に加え、新たな道路建設の啓発看板などを設置することで、近隣自治体や住民の機運を盛り上げ、共に連携をとりながら研修会などの事業も展開していきます。

**②商工業振興を図る産業基盤整備の実現**  
 藤島市街地については、これまで市街化区域や農業振興地域の土地利用計画に従い、行政が適切な開発や誘導を行い、良好な土地利用推進が図られてきました。今後、産業構造の変化に対応する工業団地や商業地の供給については、市街化区域の中に開発許容地が存在しているが、その基盤である区画道路や排水環境のための造成、面的排水施設などが未整備であるため、それらの調査と実施の検討を行っていきます。

**③定住を支援する住環境等の整備**  
 地域振興の人材、人口を確保していくためには、定住環境の整備が重要であり、宅地供給などの支援に取り組めます。

整備に際しては、市街地に留まらず地域全体を俯瞰して、地域全体の均衡ある発展に寄与するための方策の検討を行います。加えて、市街化区域内の低未利用地の開発と近年増加している空き家の利活用も検討していきます。

**④公共交通空白地域の解消**  
 公共交通空白地域の解消に向け、地域公共交通のあり方などを調査・研究し地域のニーズを反映した住民が利用しやすい仕組みを地域と協働で検討します。

**○具体的事業**

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
高速交通に対応する広域ネットワーク整備促進事業	鶴岡・新庄道路へ名称変更、啓発看板の設置	拡充	○
商工業振興を図る産業基盤調査事業	工業団地の拡大、流通団地開発、道路整備への調査業務	新規	○
定住支援住環境等の調査事業	宅地供給の調査業務	新規	○
長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業	調査委託、視察、試験運行、体制の確立	新規	○

**具体的な展開方策（2） 子育て世代から選ばれるための支援の充実** **【着眼点との整合：若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築】**

子育て世代から本市を定住先として積極的に選択してもらうための施策として何が効果的であるかを検証していきます。

また、少子化の進展と施設の老朽化が同時進行していることから、より費用対効果の高い保育園・児童館の修繕または整備方法を検討します。

**○主な施策**

**①「子育て世代特区」の実現**  
 藤島地域全体もしくはその一部地区を「子育て世代特区」と位置付け、人と環境にやさしい農業の農産物などを活用した子育て世代のニーズに対応する効果的な支援策を検証するモデル事業を実施します。その中で効果が高いものは継続するとともに、他の郊外地域にも展開していくことを目指します。

**②子育て支援施設・体制整備の検討**  
 中学校の改築を含む「文厚エリア」の再整備も視野に入れつつ、児童数の動向を見据えて、現体制の抜本的な見直しの可能性も排除することなく、保育園・児童館の施設体制の再構築に向けて行政、指定管理者のみならず、多方面から意見を聴取し検討していきます。

**○具体的事業**

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
「子育て世代特区」の実現事業	モデル事業の実証、施設再構築調査	新規	○
子育て支援施設・体制整備事業	文厚エリアの再整備(特区事業の調査結果による)	新規	○



**具体的な展開方策（3） 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり**

**【着眼点との整合：若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築】**

誰もが身近で取り組みやすい「ウォーキング」などを取り入れ、市民が手軽に楽しみながら運動できるしくみの提供を検討します。

また、高齢者の社会参画を妨げる新たな要因として、自動車免許の返納者の増加といった社会情勢の変化も生じているので、高齢者が生きがいを持って暮らし続けられるよう、社会参画の促進を図るための支援を行います。

**○主な施策**

**①いきいき充実生活支援**

買物弱者対策に加え、世代間交流を図ることによる「支え合うコミュニティ」づくりの拠点として、元町地区の単一施設における日用品の購入、食事、交流等を可能とする複合機能の充実を図ります。（ふれあいセンターの活用）

**②地域活動交通支援**

地区事業等に参加する住民に対しての交通費の一部に充てるため、事業実施主体にタクシー借り上げ等の経費の一部を補助し、世代間交流の促進による地域活性化を図ります。また、地域活動交通費支援事業補助金を創設し、地域活動センター等での事業へ参加する高齢者等の交通に際して、実施団体が用意する交通経費への支援を行います。

**③「歩こう・貯めよう」ヘルスマイレージの導入**

藤島歴史公園や地域内の遊歩道など地域資源の利活用を通じた健康づくりの推進を図るため、検討していきます。また、ウォーキングによる健康増進とポイント制による地域資源の循環利用を図る仕組みを導入します。

**④高齢者を対象とする住民自主活動の支援**

市民の自主活動による介護予防事業の開催や高齢者を対象とする市民の自主活動を支援する方策を実施します。

**○具体的事業**

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
いきいき充実生活支援事業	日用品・食事・交流施設の開設（ふれあいセンターの活用）	新規	○
地域活動交通支援事業	地域活動交通費補助（タクシー補助）	新規	○
ヘルスマイレージ導入事業	ウォーキングをすることでポイントが貯まる健康づくり	新規	○
高齢者住民自主活動支援事業	いきいき百歳体操スタート補助（イス購入費用補助）	新規	○

**具体的な展開方策（4） 地域の防災力の強化**

東日本大震災以来、住民の防災意識の高まりがあり、安全・安心な暮らしを守るまちづくりの推進が求められています。

特に藤島地域は、庄内平野東縁断層帯に位置し、また藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性から大雨による河川氾濫が頻発しており、一層の防災機能の強化を図る必要があります。

今後も災害に強いまちづくりを推進するため、共助の基本である自主防災会運営の強化と二次避難所となっている地域活動センター等の整備、訓練の実施、避難計画の策定などを支援し、地域防災力の充実を図ります。

**○主な施策**

**①自主防災会の育成支援**

自主防災会活動については、地域内全体の自主防災力の強化を図るため、先駆的な取り組みを行なっている町内会をモデルに自治振興会と連携協力のもと、各自主防災会での防災訓練の実施、また高齢者等避難困難者等を考慮した避難計画策定と防災資機材整備を支援します。

**②地域防災拠点の機能充実**

災害時の的確・迅速な対応と防災基盤強化を図るため、二次避難所となる地域活動センターの設備整備と住民の安全確保及び安全・安心なまちづくりを確立するための防災ネットワークのモデル事業を推進します。

**○具体的事業**

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
自主防災会育成支援事業	避難訓練の実施、自主防災組織への資機材費補助	新規	○
地域防災拠点整備事業	二次避難所の施設整備及び資機材整備、防災ネットワーク事業	新規	○



開発余地が無くなった状況の現在の藤島南工業団地  
 今後は更に産業構造変化への対応として企業等への雇用が求められる。



すこやか講演会  
 妊婦、1～3か月の乳児の保護者が、発達を促す体の動きを学び育児不安の解消の場としている。



市民の自主活動による介護予防事業の開催支援  
 介護予防効果が高い「いきいき百歳体操」を、町内会等のより通いやすい単位で実施できるよう支援する。



藤島地域総合防災訓練  
 渡前地域活動センターにて、避難所開設訓練